

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住宅地の一角にグループホームを作ることで、地域の住民と共生生活を送るスタイルを大切にしている。また、開放的な空間や施設はしない取り組みで利用者の心理的圧迫のないよう心掛けている。玄関に理念を掲示している。	法人としての運営方針とホームの基本理念があり、玄関にも掲示されている。理念も分かりやすい言葉で書かれており、職員も十分に理解し日頃の業務の中で実践している。月1回行われる職員会議でも折にふれ全員で話し合い、理念が業務に反映されているかお互いに振り返りを行っている。法人としての「職業倫理」、「サービス七つの誓い」などを定め、全事業所職員が日頃の支援の中で習慣化できるように方向付けしている。法人の理事長も週2日から3日ホームに足を運び、研修等で理念の周知徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームのある地区、神楽町の自治会に加入させて頂いており、行事等の案内を頂き、参加出来る時は、参加させて頂いたりしている。また、ホームで行う納涼祭にも協力をして頂くと同時に、子ども連れで参加して頂いている。	地元地区の自治会に加入し、自治会費も納めている。入居者がゴミだしや花の水やりをしている時に町内の方と自然にふれあい顔なじみとなっている。道路を挟んで向かいにある同じ法人のデイサービスと共催する「夕涼み会」も定着し、地域の人々も大勢訪れている。踊りやコーラスなどのボランティア、地元地区の女性部「タンポポの会」の来訪もある。小学校の運動会や音楽会に招待されたり、幼稚園児が来訪し遊戯の披露や折り紙を入居者と共に楽しんでいる。自宅のある地区から招待を受け秋の敬老会に出席する入居者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設するデイサービスと一体となり、地域で暮らすことに、困難を生ずる高齢者に対し、お食事を食べに来て頂いたり、お茶を飲みに来て頂いたりホームを開放した取り組みを意識して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告している。そこでの意見をスタッフ間で確認をしサービスに反映できるよう努めている。	年間6回、委員の都合もあり利用者との食事会等も兼ねるなど工夫し開催している。利用者代表、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員などが参加している。ホームの活動状況や運営状況、地域活動への参加などを報告し、委員からも貴重な意見や提案をいただいている。次の開催予定についてもその場で調整し決定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大田市及び保険者である北アルプス広域連合の職員の方にホームへ訪問して頂いたり、また、ホームの職員が登庁して相談し、指示を仰ぎ、サービスに反映するよう心掛けている。	市及び広域連合の職員とは地域生活支援事業等の相談でお互いに行き来している。毎月、広域連合の委託を受けた介護相談員2名の受け入れをしている。入居者の食事の準備に加わっていただいたり聞き役になっていただき、その都度報告書を作成していただいている。ホームのサービスや運営に関する貴重な意見となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を禁止する取り組みについて玄関に掲示すると同時に、スタッフを対象に研修も行っている。	職員会議の際に行われる勉強会で身体拘束等の排除等に関する学習をしており、職員はその弊害を認識している。拘束を必要とする方は現在全くない。過去にベッドからの立ち上がりにより不安を抱え必要となる場合もあったが、本人の居室に頻繁に顔を出し見守りに対応したこともある。玄関は開錠されておりチャイムなどの設置も全くない。現在は外出傾向の方も全くないが必要な場合は職員がホーム近辺を一緒に散歩することで落ち着かせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、詳細ではないが、概要については、勉強会で紹介はしている。また、虐待がないようスタッフ間でのミーティングやケース会議にて、ケアの意識確認を行っている。		

北アルプスの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人の代表理事が社会福祉士として、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、管理者や職員に伝え、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面を管理者及び計画作成担当者が分かりやすいように説明し、不安や疑問があれば納得のいくよう丁寧に説明することを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会、ケースカンファレンス等により、利用者や家族の意見を確認し、ケアプランにも反映させるよう心掛けている。	殆どの入居者がその場での気持ちや要望を表出できる。家族等も少なくとも1ヶ月に1回はホームに顔を出しており、その際に意向や要望などを聞いている。家族が誕生日会の食事のお手伝いとして来訪した際には個別懇談を行ない、意見や要望等を伺ったり、介護計画等の説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表理事が計画作成担当者の職を担っていることもあり、身近で運営に関する意見を職員から聞き、それを反映させるよう心掛けている。	隣接のデイサービス職員との合同の会議や勉強会が毎月行われ、サービスや運営についての振り返りをし、意見や要望、提案等を集約している。職員間でも分らないことはお互いに教えあったり、代表理事が夜勤に入ることもあり、現場の職員と苦楽を共にしていることから要望・提案などが言い易く、風通しの良い職場風土が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給のほかに、賞与など各人の勤務状況を勘案して給料に反映するようにしている。また、研修、資格取得に向けての機会を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会をデイサービスの職員と合同で毎月1回行っている。また、介護福祉士等資格取得を目指したい職員に対しては、そのような講座に積極的に参加するよう働き掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム連絡会に加盟している。また、身近なグループホームと意見交換を随時行っている。		

北アルプスの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に不安な利用者には、事前にお試し利用をして頂き、グループホームでの生活がどのようなものかを知って頂くようにしている。また、不安なことや困っていることは、本人に丁寧に確認をするようにしてる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これからのグループホームの暮らしで、不安なことは、管理者並びに計画作成担当者があらゆる場面を想定しながら話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅で生活をしている要介護者の場合、本人の状況を確認した上で、家族や担当の介護支援専門員と相談をしながら、適切な生活の場を確認し合うことをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人の職業倫理に、「介護の仕事は感謝の仕事」というスローガンを掲げ、その中で、利用者から学ばせて頂いていることに感謝する文言も入っており、日々の生活に喜怒哀楽があることが、あたりまえのことと受け止め、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に随時、本人を支えていく上での助言を頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でもホームに来やすい環境作りに心掛け、これまでの馴染みの関係の人にも自然と足を運んで頂けるようにしている。また、本人が外出して会いたい時にも、家族と相談して対応している。	昔からの友人や甥、姪等の来訪があり、自室で歓談をしている。お墓参りに行きたいとの希望があれば、家族等とも連絡を取り外出支援が実施されており、入居前からの美容室に家族の支援をうけ出かけている方もいる。知人からの年賀状などもホームに届いており、入居前の人や関係の把握、継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数での共同生活のため、他の利用者との関係が崩れると共同生活を快適に送ることができない。そのため、スタッフは常に他の利用者との関係作りのコーディネーターとしての役割も担うよう努めている。		

北アルプスの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性があれば、ホームとして出来る範囲において、継続的な関わりを大切にしている。退所後の施設に面会に行かせて頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時以外にも、本人の希望や意向の把握に日々努めている。また、困難な場合は、過去の生活歴等を勘案した形で現在の暮らしに反映をしている。	法人の運営する隣接のデイサービスや他の地区で運営しているデイサービスからホーム入居に到った方や体験入所を経て入居した方が多く、自分の思いについて殆どの方が表出できる。入居者や家族から暮らしぶりや経験などを聞き取りアセスメントシートに書き留め、入居前の環境づくりや支援計画に反映している。入居者からアドバイスをいただいた時やお手伝いをいただいた時には感謝の言葉を伝え意思疎通の円滑化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らしについては、ご家族に確認をしたり、在宅時の担当の介護支援専門員に確認をしている。また、サービス利用の経過についても同様である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のエンパワメントになるようアセスメントし、介護過程の展開をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について、ご本人、ご家族の要望を聞いた内容を介護計画作成に直接反映できていない利用者もあった。	曜日等を調整し毎月第4週にケースカンファレンスを実施している。家族の来訪時には面談し、要望・意見を取り入れ計画を作成し、作成後確認していただいている。個々の対応になるが担当医の意見も交え作成することもある。通常は3ヶ月に1回の見直しとしているが、家族の意向や状態に変化が見られる時には変更している。毎日のチェックリストにも介護計画に沿って各入居者ごとの目標を掲げており、サービスの実施状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に則ってサービスを提供し、日々の記録として、介護計画を実施したか否かをチェックし、できない場合については、その理由も記入するようにしている。あわせて、ケース記録にも日々の気づきや実践内容を個別に記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の中には、機能訓練やレクリエーション、他者とのたくさんの触れ合いなど望む方もおり、その場合は、併設されているデイサービスの活動にも参加して頂くこともある。		

北アルプスの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるお店を確認し、食べたいもの買いたいものはご希望を確認しながら外出している。また、行楽シーズンには、観光名所を散策するなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携のほか、入所前から継続して診察して頂いている受診機関がある場合は、ホームに入居してからもご希望で通って頂いている。	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続しており、希望により変更している。内科医、歯科医、精神科医による往診も可能である。夜間・休日等は市内の総合病院との連携体制が築かれている。通院の付き添いは基本的には家族等となっているが緊急時や家族が付き添えない時には職員が同行している。ホームの管理者が看護師でもあるので家族への報告・相談はこちらを窓口として一本化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をとっていない状況のため、看護師、訪問看護との連携は現在ないが、併設しているデイサービスの看護師と密に連携をとり必要に応じ看護を受けることができる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大町総合病院が緊急では受診する医療機関となっており、入院した場合は定期的にカンファレンスを行い、常々、状況を病院関係者に確認をとらせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者を中心に主治医と連絡を密にし、職員に対応方法を指示するようにしている。またご家族に来所された際に日々の状態や対応内容をお伝えしている。	訪問調査日直前にホームで最期を迎えられた方がいた。家族からも同意を得て逐一報告・相談しながら、医師の往診や指示も受け、更には医療機器等も導入するなど万全の体制で臨んだ。看護師でもある管理者から褥創予防や体位交換など症状に合わせた指導を受け職員からも「ここで見てみよう」という前向きな言葉を聞くことができた。今までも直前までホームで生活していて病院に運ばれ最期を迎えたケースが数例あり、その都度、家族との話し合いで方向性を示し、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置については、管理者が看護師資格を持っているので、連絡を取り指示を仰ぐようにしている。また、処置や対応の方法の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、最低年2回実施している。また夜間帯の避難についても職員会議で話し合わせ訓練に活かすよう心がけている。地元消防局等、近隣の方への理解、協力もお願いしている。	夜間想定1回を含め年2回防災訓練が行われている。車椅子の入居者も参加しており、通報訓練、消火器訓練、避難・誘導訓練が実施されている。スプリンクラーや自動火災報知器なども設置されている。消防関係に詳しい家族の方もおり運営推進会議等で貴重な意見をいただいている。缶詰などの非常食や介護用品の備蓄もある。	

北アルプスの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から、利用者の気持ちや人格を尊重するような対応に努めている。研修、職員会議に尊厳、プライバシーなども議題にあげ取り組んでいる。	法人の「職業倫理」や「サービス七つの誓い」にも明確に掲げられている。「傷つけない(からだと心)」、「しゃべらない(ひみつと悪口)」、常に入居者に対し「させて下さい」という奉仕の心、「おかげさまで」という謙虚な心など、わかり易い言葉を実践している。排泄などの失敗時には場所を変え、他の入居者に知られないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう一人ひとりの表現の仕方を尊重した関わりを大切にしている。答えやすいように閉じられた質問をしたり工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの利用者のペースを最優先して生活を支援している。起床時も本人のペースで、入浴も希望を聞き、入る日や時間等調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、洋服等は、本人の好みに合わせ、家族が用意して頂き、理美容についても家族に連れて行って頂いたり、本人の希望で訪問理美容に依頼するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時の準備と片付けには、利用者に参加して頂いている。食事中は職員が会話の橋渡しをして、楽しみながら食事をとって頂くようにしている。	殆どの入居者が介助なしで食べることができる。献立は職員によって考えられており、少量ずつ、いくつもの種類の料理が彩り良く盛り付けされ、キザミを必要とする方には本人の目の前に一旦料理を並べその上でキザミにしている。入居者も自分のペースで職員と同じテーブルで食べている。食材の買い物に交替で職員と同行したり、そば屋、ラーメン屋などへ外食にも出掛けている。ホームの敷地にある畑では夏野菜やネギ、大根などが収穫でき、食卓を賑わすことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については、毎食時チェックをし、日々の変化に応じた食事への支援をしている。また、水分量についても3度のお食事以外にも10時と15時のおやつ時にも摂取して頂いている。就寝前に全介助の人には摂取して頂くなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の方には、ブラッシングで口腔ケアをして頂き、義歯の方に洗浄をしている。また、食後にはお茶や水など摂取して頂き口腔内の清潔に心がけている。		

北アルプスの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯にもすぐにオムツにしてしまうのではなく、PTイレを使うなどできるだけ排泄への残存機能の活用を心がけている。また、全介助の利用者でも排便の時は時間を決めトイレは座って頂くなど自立支援にも努めている。	殆どがリハビリパンツを使用している。3つの居室毎に前室と一箇所のトイレがあり立位タイプも全てに備え付けられている。居室に排泄チェック表が掲げられ本人に記入していただくようになっているが、本人が記入できない場合には時間や排泄パターンにより対応し、声掛け、支援している。数名の方が夜間のみ居室にてポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の利用者には朝ヨーグルトやバナナ、水分摂取など自然排便を促すような対応もしている。また、運動不足のために起こりうる便秘症の利用者には体操や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、入浴の希望を朝確認をさせて頂いている。	冬場は一日おきに、夏場はほぼ毎日入浴している。一人ずつで入浴していただいております。リフト浴も可能であるが、職員が2人で介助し浴槽に浸かっていただくこともある。介助する職員や時間帯にも配慮しており、可能な限り入居者の希望に沿うようになっている。菖蒲湯やゆず湯を楽しんだり、日帰りで家族と温泉に行く方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を重視し、消灯の時間も個々の時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の利用者の薬の目的については理解し、それによる副作用等についてもケース会議、申し送りの時に確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が好きな人は、お食事作りに参加、お買い物好きな人は買い物外出、お散歩が好きな人にはお散歩の時間等、個々希望に合わせて参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の楽しみを見つけにドライブをし、散歩をしている。また、家族が迎えに来て頂き、外出して頂く利用者もいる。買い物希望される方には買い物に出れるようにしている。また、昼食に夕食する機会を設けている。	暖かい時季には毎日ホーム周辺を散歩している。交替で、職員とともに買い物へと出かけることもある。行事外出計画が年間で立てられており、お花見やつつじ見物、アヤマや紅葉の名所などへと交替で出かけている。家族と連れ立って夕食や温泉に出掛ける方もいる。	

北アルプスの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭管理ができる能力がある場合、所持して頂いている。また、希望の買い物は、一緒にお財布をもって出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときは、かける相手を確認させて頂き対応している。手紙の希望は、3回ほどあり対応した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋のレイアウトや使うものは、全て本人と家族で選んで使っている。また、居心地の良い空間作りのため、季節感のある花や木をホーム内にも置いたり、適度な採光が入るような設えにもこだわった建物の設計となっている。	リビングを中心に各居室が配置されており、ガラス越しには中庭の蘭や鉢物が見え、癒しの空間となっている。お雛様が飾られたり、入居者の塗り絵や貼り絵が壁に飾られている。リビングの一角には畳の小上がりがあり、ボランティア手作りの座布団カバーが目に入る。床暖房も施されており、快適な環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各部屋の前に前室を設けて一人になれる空間を作っている。また、気の合う利用者が一緒に話せる場所が、和室や談話室や囲炉裏など各所にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋のレイアウトや使うものは、全て本人と家族で選んで使っている。また、居心地良く過ごせるようにこたつを置いて頂いたり、遺影を飾って頂いたり工夫している。	三つの居室ごとに前室とトイレが配置されている。各居室には洗面台があり、暖房として温水ヒーターが導入されている。ペット使用の方が多いが、布団の方など各入居者に合わせた対応ができる。使い慣れた筆筒や衣裳ラック、テレビなどが置かれ、入居者の生活に合わせて居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分のものが分かるように衣類など必要なものには名前を入れている。また、バリアフリー設計のため、車いすではなく杖歩行に移行し安全に歩けるよう手すりなどもつけている。		